

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1176501839
法人名	株式会社 カネットふれあい
事業所名	ふれあい多居夢 大宮
所在地	〒331-0053 埼玉県さいたま市西区植田谷前通461-3 (電話) 048-620-6616

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(平成20年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 5人, 非常勤 11人, 常勤換算	15.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	30,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日あたり 円			

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 72.3 歳	最低	54 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須賀医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、田園風景が残る住宅街の一角に位置し、天気の良い日には各りビングから富士山が見えたり、居室からは周りの景色が一望でき、四季の変化が肌で感じられる。各ユニットにパブリックスペースがあり、職員と利用者は自由に出入りしており、癒しの空間となっている。介護計画は、利用者、家族の思いや希望を尊重したものが作成されており、その人らしい日常生活が送られている。「生活の基盤は食から」との考えのもと、食事に関する一連の作業を利用者と職員が一緒に行い、「食」を通して良い関係が築かれている。寝具類の衛生にも注意し、週1回、業者からリネン類が届けられ交換している。利用者は家庭的な環境のもとで地域にも溶け込み、ボランティアの受け入れやいきいきサロンへの参加をするなど、機会あるごとに地域住民との交流を深めている。また、母体の支援により、介護の質の向上に向け、認知症ケアのエクササイズ等にチャレンジしているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で改善課題として挙げられた「事業所独自の理念の明示」については、評価後、職員全員にアンケートをとり責任者が取りまとめ、独自の理念を作り上げている。しかし、地域密着型サービスとしての内容を盛り込んだ理念には至っていない。支援状況としては、地域に密着した支援が取り入れられ、利用者職員が一体となった安心した日常生活が送られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、昨年度の自己評価票を参考にしながら各フロアで話し合い作成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、本部職員、管理者で構成され、会議では、ホームからの報告や外部評価の評価結果の報告、地域の行事予定の連絡、情報交換などが行われている。また、地域のボランティアの受け入れや自治会館で行われる行事への参加状況について伝えたりしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見や苦情については、基本的に居室担当者が受理し、フロア長、管理者へと報告するシステムをとっている。その後、管理者が責任をもって解決、対応をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎日の散歩時にあいさつを交わしたり、いきいきサロンへ参加するなど地域に溶け込んだ生活支援をしている。地域住民のボランティアの受け入れや運営推進会議のメンバーである自治会長、民生委員の意見もしっかりと受け止めており、連携を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内の理念に加え、事業所独自の理念を職員で話し合い作成したが、地域に密着した内容を盛り込んだ理念にはなっていない。	○	実際には地域に密着した支援が行われていることから、事業所独自の理念に地域密着型サービスとしての内容を新たに加えることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	フロア会議や全体会議で理念について触れ、管理者、職員で共有し、地域の中に溶け込んだ支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会館で行われる「いきいきサロン」や近所の保育園の節分祭に参加するなど交流を図っている。また、地域の囲碁や将棋ボランティアなども受け入れており、天候が許す限り散歩にも出かけ、地域の人々と挨拶を交わしたり、野菜や草花等の頂き物をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、昨年の評価を参考にして、各フロアで職員と話し合いながらまとめている。評価結果については、運営者、管理者、全職員に確認してもらい、改善に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、本部職員、管理者で構成されており、会議ではホームからの報告や情報交換が行われている。会議内容については、全職員に見てもらい質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所には利用者の認定申請代行等出かけている。訪問した際は、疑問に思うことを聞いたり、グループホームの情報を伝えたりすることで連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「ふれあいつうしん」を送付し、グループホームの情報や利用者の様子を伝えている。また、出納帳の写しや請求書、職員の異動等についても知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、不満、苦情等については、フロア長から管理者へ伝えられ、管理者が責任をもって対応し解決をしている。結果については、家族に伝え了解を得ている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	会社内部の異動や職員の離職については最小限となるように努めている。やむを得ず職員が代わる場合には、現職員がサポートしながら少しずつ関わりを持つようにし、馴染みの関係を築くようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修は行われているが、その後の内部研修や外部研修への参加は、職員の配置関係もあり行われていない。	○	地域密着型サービスの従事者として質を向上させていくためにも、内外の研修の機会を確保していくことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等の交流や研修のお知らせを掲示しているが、職員の配置状況により参加することが難しい状況にある。	○	サービスの質を向上させていくためにも、同法人や他法人の同業者との情報交換や交流の機会を持つことができるよう工夫することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始時に不穏状態になった時などは、家族の協力を得て外泊や外出ができるように支援するなど、利用者の状態に合わせて徐々にグループホームの生活に馴染んでいけるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と一緒に生活しながら、料理や礼儀作法、昔の出来事やしきたりなどを教えてもらったり、時には職員の相談にも乗ってもらうなど、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で、利用者の様子や会話から希望や思いの把握に努めている。また、把握が困難な場合などは、家族の来訪時に話を聞いて情報を得ている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族から要望等を聞いている。また、フロア会議で職員間で話し合っ様々な視点からアイデアを出し、居室担当者がアセスメントをした後、計画作成担当者が介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月ごとに介護計画を見直している。状況の変化に対しては速やかに見直しをして、家族に連絡をとって対応している。職員の意見等を聞く時は、連絡帳を利用してきめ細かな対応を心がけている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の通院等の支援をしているほか、近くの理美容を利用する方や必要な買い物に同行するなど、状況や要望にそった支援ができるよう対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、かかりつけ医について説明している。主治医をホームの協力医に変更することも可能であり、月2回の定期的な往診がある。往診時に通院の必要性について医師から指示を受けた場合には、職員が付き添って通院している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い時期から利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医、職員、訪問看護等の関係者と話し合いをして方針を共有している。これまでに2件の看取りをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの出入口には暖簾が掛けられ、外部から見ても一見トイレとは気付かないように配慮するなど工夫している。個人情報の取り扱いについては、記録の際に本人以外をイニシャルで記入するなど注意して対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるが、利用者の体調や希望等に合わせ、予定を変え、買い物や外食に出かけるなど、利用者のペースを大切にしながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員で食事の献立を考え、食事と一緒にしている。また、食材の買い物から調理、盛り付け、配膳、後片付け等一連の作業に利用者も参加し、共にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が入浴を希望した際にバイタルに問題がなければ、何時でも入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者でも最低週2回の入浴をすすめている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	契約時に発症経過シートとこれまでの生活歴を記入してもらい、日々のケアに活かしている。将棋やフラワーアレンジメントのボランティアなどを受け入れたり、裁縫の得意な利用者にかバー等を縫ってもらうなど、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的には毎日外出するように心がけている。また、散歩等に出かけられない利用者には、車椅子で外気浴ができるよう工夫しながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には鍵をかけず、自由に行き来できるよう支援している。防犯上のこともあり、夜間のみ玄関に施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は避難訓練を1回実施しているが、地域の避難場所の確認や地域との協力体制が十分とは言えず、夜間を想定した訓練等は実施されていない。	○	避難場所の確認を全職員が認識するとともに、運営推進会議の場を活用するなどして、地域との協力体制を整えていくことが望まれる。また、夜間を想定した火災や地震等の訓練を実施していくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量等をチェックし記録している。また、週1回の体重測定を実施して、体調不良等を早く発見できるよう注意しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下が広くとっており、大きな窓から外を眺めると季節を感じとることができる。また、キッチンからはご飯の炊ける匂いや炒めものの音が聞こえ、廊下の壁にはスナップ写真や折り紙などが貼られ、生活感のある空間となっている。また、各フロアにはパブリックスペースがあり、利用者は会話などを楽しみながら過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台、エアコン、クローゼットが取り付けられている。他のものは全て持ち込みで、利用者の使い慣れた椅子やテーブル、仏壇、位牌、写真なども置かれている。また、利用者の思い出の品が配置され、安心して生活できるように配慮している。		